

第1問 テーマ史。例年通りテーマに大した意味はないが、同じ小問の中で2つの時代を並べて答えるものがありやや惑わされるか。すべて1問2点は去年と同じ。

- 問1 ア。新嘗祭は秋の祭り（「勤労感謝の日」）
- 問2 Iは江戸、IIは弥生、IIIは鎌倉時代。
- 問3 Y。太占は鹿の骨を焼いてヒビで吉凶を占う、古墳時代の風習
Z。寺社奉行が祭礼を決定したら自治にならないだろう。
- 問4 甲は馬の形象埴輪、乙は馬借を描いている。※a(判別型)の図版問題
- 問5 ④神仏分離令は明治政府の政策。寺の荒廃や廃仏毀釈を招いた。
- 問6 ①太政官と神祇官の併置はむしろ祭祀の重視、祭政一致政策と解釈されている。
②大教宣布は逆に神道国教化をめざしたもの。
③久米邦武のこの言葉は神道家たちから非難され、帝国大学を辞職した。

第2問 古代史。考えさせる問題が多かった。

- 問1 アの「書する者は張安」では分からないが、語群を見ると稲荷山古墳と江田船山古墳なので、熊本ということで江田船山に決まる。イは、時代が7世紀後半以降ということで、青銅器は誤りと分かる。
- 問2 ①「海面上昇」「貝塚」で縄文時代と分かる。
②「硬質で灰色の土器」は須恵器で、古墳時代以降。
③ナウマン象やオオツノジカは氷河期（日本では先土器時代）の大型生物。
- 問3 Iは律令の規定、IIは大学別曹で平安初期、IIIは平安中期。
- 問4 「左京六条三坊」と問題文にある。ただし右側が左京なのが注意点だが、逆にそれさえ分かれば左京に点は1つしかない。→古代9 ※c1(分析型)の図版問題
- 問5 富本銭は天武朝、乾元大宝は村上朝の鑄造。聖武朝なら和同開珎しかない。
- 問6 きちんと史料を読ませる問題。逆に言うと読めば分かる。もともと、②の「金堂」は史料のどこにないので×と判断しやすい。④の奈良から敦賀まで水路というのは不思議かもしれないが、部分的に琵琶湖を利用したのである。※c1(読解型)の史料問題

第3問 中世。問5がやや難しいが2択までは絞れる。

- 問1 文章が前九年・後三年の役のことだと分かれば簡単。もともと、「陸奥」なのだから大江や福原はちょっとありえないが。
- 問2 11世紀の後半というだけで1つに絞れる。しかもご丁寧に語群は時代順に並んでいる。①は10世紀、②は11世紀前半、④は13世紀(鎌倉時代)。
- 問3 中尊寺金色堂の建築様式など知らないと思うが、円覚寺舍利殿が禅宗様(鎌倉時代に宋から伝来した新技術)であることを覚えていれば、違うことは推測できる。
- 問4 分一銭は徳政令に課税したもの。関東御分国は鎌倉幕府の財源。
- 問5 ①は戦国大名の政策。②は使節遵行、③は刈田狼藉の取締、④は守護請。
- 問6 戦国大名は出身が大事。守護出身は足利一門の今川氏と平安から続く武田氏。

第4問 近世。問3が難問。

- 問1 18世紀初頭の正徳の治で、金銀の流出防止のために長崎貿易を制限した（海舶互市新例）ことを思い出してほしい。
- 問2 Iが江戸初期、IIが幕末なのはすぐ分かる。ならばI→III→IIと予想できるはず。IIIであるが、田沼時代に発行された南鐮二朱銀のこと（朱は金貨の単位）。この貨幣は田沼の失脚で通用が禁じられたが、その後復活して次第に普及していった。
- 問3 これは難問。①と④が正しいのは分かっても②と③で迷う。③設問の文章から分かるように、朝鮮人参の輸入は対馬藩、国内栽培は幕府が進めていたものであり、商人たちが株仲間を作る余地はなかった、と推測してほしい。②については倭館という語が「三浦の乱で衰退したはず」と思わせるが、釜山では存続していた。
- 問4 これもきちんと史料を読ませる問題。「多く作りて他国へ出し」が、特産品の専売を指している。※c1(読解型)の史料問題
- 問5 薩摩と言えば、琉球密貿易・黒砂糖専売・貨幣偽造・借金踏み倒しである。その上に近代化を成功させた。IIIの「フランス」が「イギリス」の間違い。
- 問6 Iは干鰯を指している。樨はろうそくの原料。実は鰯も鰯同様に肥料にした（鰯粕）のだが、漁獲地は蝦夷地など北国なので「九十九里」に合わない。→近世12

第5問 近代史。判断に迷うものもありそう。

- 問1 ア．愛国社が国会期成同盟へと発展した。
イ．各地で政治演説会が行われた豪農民権期の弾圧法令は集会条例。
- 問2 Xがaかbかは確かに迷うが、少なくともYでdは選ばないように。
- 問3 ④いくらなんでもそれはないだろう。
- 問4 Yいくらなんでもそれはないだろう。

第6問 近現代の政治史。尾崎行雄は第1回衆議院議員選挙から連続当選25回という空前絶後の記録を持つ（落選したのはバカヤロー解散）。こういう人物に着目すると問題が作りやすい。ほかに大隈重信、犬養毅などが「使える」。

- 問1 イ．一年違いだが直後に海軍軍縮条約がある。
- 問2 Iはロシア革命の後であり大戦の後半。IIはIIIによる山東半島占領が前提。IIIが大戦勃発後すぐだから、III→II→I
- 問3 ロンドン海軍軍縮条約のこと。若槻は全権。首相は浜口雄幸。
- 問4 Iは満州事変、IIは二・二六事件、IIIは五・一五事件。III→IIは基本。Iで倒れた内閣が第2次若槻であることからIII（犬養）の前。
- 問5 史料をきちんと読めばわかるが、語群だけ眺めても③だけが浮いているので分かるだろう。※c1(読解型)の史料問題
- 問6 サイパンの陥落は日本本土空襲を容易にしたことが総辞職の要因。→近代43
- 問7 ③国連憲章は1945年6月には成立している。→現代3
- 問8 bに自信がなくても、dが確定で組み合わせがaかbなので、aは除外できる。今年現代史は少なく、やはり高度成長期がポイントだった。